

第3回上京区基本計画策定委員会 ワークショップのまとめ

テーマ1 テーマ別まちづくり構想について

意見・アイデア	対応
<p>○子育て世代の地域参加</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子育て支援の場所があれば30～40代が地域に出てこられる ・子育てママ世代が住みやすくなるといい ・子育てカフェ～東京の事例～←上京歴史探訪館 ・預かれないけどヤングママと0～1才児が遊べる空間はある！ (例) つどいの広場、とねりこの家など ・子どもを安心して預けられる場所 ・<課題>30・40代の地域づくり参加は少ない ・一年一度の運動会のみ 	<ul style="list-style-type: none"> ・子育て支援については、テーマ3・方針2・取組「子育て支援・育児不安の軽減」で記載しています(28頁) ・しかし、テーマ1・方針・取組「多様な人々、団体の地域活動への参加の機会の確保」の取組例に、子育て世代の地域参加に関する内容が欠けていましたので追加します。 ・また、「子育て」は、地域での交流を促す要素となるので、テーマ1・方針1・取組「身近で気軽に交流できる場づくり」の取組例を追加します。 <p>【追加】</p> <p>テーマ1・方針1・取組「身近で～」 ⇒子育てサロンや交流会等の開催、子育てグループ活動への支援(23頁)(テーマ3・方針2・取組「子育て支援・育児不安の軽減」に再掲)</p> <p>テーマ1・方針2・取組「多様な～」 ⇒イベント・会議等での託児ボランティアの開設(24頁)</p>
<p>○地域における学生の取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学生が長屋に住み、地域に参加する仕組みづくり ・大学生が地域に入っていくきっかけづくり(町家、交流会、銭湯) ・学生と高齢者が空家や町家に一緒に住めたらいい ・学生は活発な参加、体力を重宝し、町費を払わずともよい ・学生さんの参加がもっと高く評価される仕組みがほしい <p>⇒例えば京都の企業に就職の際にいきなり役員面接から…だとか、いい</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学生の居住支援については、テーマ4・方針1・取組「住み続けることができるすまいづくりの促進」(31頁)で、また、地域に参加する仕組み等については、テーマ1・方針2・取組「多様な人々、団体の地域活動への参加の機会の確保」で記載しています(24頁)。 ・また、学生の地域活動への参加の促進については、町費の学割を行っている元学区の取組を参考に取組例を修正します。 <p>【修正】</p> <p>テーマ1・方針2・取組「多様な人々～」・取組例「若者や学生への地域活動の企画段階からの参加の呼びかけ」 ⇒「自治会費の学割制度の導入と自治会事業の周知」(24頁)</p>

<p>○ふれあう場の維持・創出—空家／銭湯／イベント</p> <ul style="list-style-type: none"> ・空家やゴミ屋敷がなくなって町が元気になるといい ・空き店舗・家が発信拠点に ・共有スペース，場所を生かす ・ふれあい，銭湯※待賢学区に銭湯を ・銭湯がなくなった ・銭湯でしかできないふれあいがなくなると残念 ・町家でギャラリーやっています（都ライト，イベント） ・区役所に交流の場づくり 	<ul style="list-style-type: none"> ・空き家や空き店舗を利用した交流の場づくりについては，テーマ1・方針1・取組「身近で気軽に交流できる場づくり」で記載しています（23頁）。また，区役所の交流の場づくりについては，取組「区民が交流できる場にふさわしい新上京区総合庁舎の運営」で記載しています（なお，平成24年度に仮庁舎に移転予定です）（23頁）。 ・また，銭湯を取組「身近で気軽に交流できる場づくり」の取組例としてあげるの難しい状況です。
<p>○コミュニティビジネスなど持続的な地域活性化に向けた仕組み</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コミュニティビジネスが仕事を生み出すといい ・有償ボランティアにより，継続的な地域活性できる仕組み ・有償ボランティアへのお礼を仮想通貨「藩札」「都人」で支払うといい ・コミュニティ食堂やコミュニティカフェがあちこちたくさんできるといい ・出前カフェ ・上京区内で通用する地域通貨「かみぎゅう君」ができればいい ・本当は市地域で使える地域通貨「都人」研究会ができると理想 	<ul style="list-style-type: none"> ・コミュニティビジネスや有償ボランティアについては，これからの地域のまちづくりを考える上で，重要な視点であると考えます。したがって，テーマ1・方針2の前文に，その趣旨を加筆します。 ・また地域通貨については，その実現可能性及び効果について検証されておらず，中間見直しの時点で検討したいと考えます。 <p>【修正】 ⇒テーマ1・方針2・前文（24頁）</p>
<p>○外国語による地域文化の発信</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域文化を外国語で発信（語学教育＋京都文化教育） ・地域の事を学べる場があるといい。英語とからめて 	<ul style="list-style-type: none"> ・上京区には海外からも多くの観光客が訪れており，外国語による地域文化の発信については，今後の観光サービスを考える上で，重要な視点であると考えます。また，今後，留学生等の増加が予想されるため，地域（生活）情報の提供も必要となってきます。語学教育との関係については十分議論ができていないので，現段階では観光に焦点を絞って，取組例を追加します。 <p>【追加】 テーマ1・方針1・取組「地域との交流～」・取組例 ⇒外国語による地域（生活）情報の発信（23頁）</p>

	<p>テーマ4・方針2・取組「～魅力の分かりやすい紹介と発信」・取組例 ⇒携帯端末やIT技術等を活用した外国語による地域文化の発信（32頁）</p>
<p>○駐輪場の整備</p> <ul style="list-style-type: none"> ・烏丸今出川の歩道を自転車が通りやすいようにしないと！ ・半分以上は通勤者であり，行政が駐輪場を作らないと！ ・駐輪，自転車への取り組みを夢に。 ・町の美化（烏丸今出川の交差点の自転車の乱れが目立つ） 	<ul style="list-style-type: none"> ・不法駐輪対策については，テーマ2・方針1・取組「安心して歩くことのできる環境整備の促進」で記載しています（25頁）。
<p>○町内活動への多様な主体の参加</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アドバイザーや学生が何しているか分からない（町内会レベルに入っていくことも必要） ・町内の人々が区役所まで足を運ばない（もっと学区に入ってきてもらう） ・区役所に行ったら紹介してくれる窓口機能 ・行政も若者やボランティア団体とようやく関わりを持てるようになった ・輪を広げていくことが実現に進んでいく ・知る→伝える→つなぐ 一つの輪として流れを作る必要がある ・地域のコーディネーターがもっと町内に入っていけばいい 	<ul style="list-style-type: none"> ・学区や町内会の活動への多様な主体の参加については，テーマ1・方針取組「多様な人々，団体の地域活動への参加の機会の確保」で記載しています（24頁）。 ・また，若者やボランティア団体と地域活動との連携の種がまかれ，芽が出てきているのが実感できます。この芽を地域に根付かすためには，新しい力と地域を結びつける人材が地域の中に必要ですので，人材養成の必要性をテーマ1・方針2の前文で加筆します。 <p>【修正】 ⇒テーマ1・方針2・前文（24頁）</p>
<p>○新たな地域活動の担い手の受け入れ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高齢化が進む中で，活動の担い手はどうなっていくのか。 ・地域の人々が自発的にやれる方法を考える必要がある ・昼間，町内には高齢者だけ。どういう取組ができるか。活性化のキーは学生 ・地蔵盆の夜に意見交換したりする ・室町の自治連で学生と企画する ・井戸端会議的な集まりをしていく（つなぐ人，伝える人が必要となる） ・NPO ボランティアと一緒に地蔵盆 	<ul style="list-style-type: none"> ・学生やNPOとの連携による地域活動の実施については，まず，学生等が地域活動に参加する機会を確保するということで，テーマ1・方針2・取組「多様な人々，団体の地域活動への参加の機会の確保」で記載しています（24頁）。 ・また，身近に交流できる場を確保するということで，同じくテーマ1・方針1取組「身近で気軽に交流できる場づくり」で記載しています（23頁）。
<p>○交流機会の確保</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・新しい総合庁舎での交流や各種イベントの開催については，テーマ1・方針

<ul style="list-style-type: none"> ・新しい総合庁舎！ ・上京ふれあいまつり以外にみんなで楽しめるイベント！ ・町内単位では子どもが少ないので規模を広げてイベントを多く！ 学生さんとコラボ！ ・どこの町内会でも地蔵盆をしており、学生に参加してもらうことからスタート 	<ul style="list-style-type: none"> 1・取組「身近で気軽に交流できる場づくり」,「区民が交流できる場にふさわしい新上京区総合庁舎の運営」で記載しています(23頁)。 ・また、学生の地域活動への参加については、テーマ1・方針2・取組「多様な人々、団体の地域活動への参加の機会の確保」で記載しています(24頁)。 ・町単位での取組を広げた交流機会の確保については現在、記載していませんが、テーマ1・方針1・取組「地域同士の交流の促進」(23頁)の取組例の文言を追記することで、対応したいと思います。 <p>【文言修正】</p> <p>現：元学区単位の自治活動だけでなく統合小学校区単位での交流機会の確保 修：町単位や元学区単位の自治活動だけでなく統合小学校区等、隣接する学区も含めた交流機会の確保(23頁)</p>
<p>○マンション居住者との交流</p> <ul style="list-style-type: none"> ・マンションも住民側が回数を重ねてコンタクトをとってほしい ・市民しんぶんを見ない→地元から進めていく ・となり同士のつきあいが大切 	<ul style="list-style-type: none"> ・多様な人々との交流については、テーマ1・方針1で4つの取組を記載していますが、マンション居住者との交流について追加します。 <p>【追加】</p> <p>⇒テーマ1・方針1・取組「地域同士の～」 マンション居住者との交流に向けた取組への支援(23頁)</p>
<p>○自慢できるまち</p> <ul style="list-style-type: none"> ・街を自慢したくなるようにしたい ・ゴミひとつ落ちていないまち ・美しい京都！上京！毎週、毎月きまった日に清掃活動とか！ ・北山通の花、プランターのように人が歩ける通りを作る(ゴミを捨てない) ・地元への愛着を高める取組(中京区では道路にチョークで「街の未来」を描いたりした) ・町家のライトアップをして外から見たときの統一感を示した ・どこの町にもお花が植えてある！地域で育てる ・商店主や学生、住民が自分たちの生活を案内(自慢語りたい) 	<ul style="list-style-type: none"> ・まちの美化や緑化については、テーマ5・方針3・取組「まちの美化の推進」,「まちなかにおける緑化の推進」で記載しています(34頁)。 ・また、地元への愛着を高める取組については、基本計画記載の取組全てがそれに通じるものであると考えており、計画に記載している取組を着実に実行していきます。 ・日常生活を自慢できるまち、という視点は、地域主体のまちづくりを進めていく上で重要な視点であると考えます。基本計画に記載している取組を確実に実行していくことで、誰にでも、自慢できるまちを目指したいと考えています。

<p>○観光客のルールづくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・観光客のマナーも考える必要がある。お互いに、もちつもたれつの関係が重要 	<ul style="list-style-type: none"> ・上京区の魅力を深く楽しんでいただくためには、歩く観光が中心となります。道路幅員の狭い上京区では、騒音やゴミ問題など日常生活を脅かすような観光公害を防いでいくことは、将来重要な課題になると考えます。中間見直しの時点で検討したいと考えます。
<p>○実行できる計画</p> <ul style="list-style-type: none"> ・できることからまずやろう ・実行が伴わないと意味がない→実際に実行できる基本計画に！ ・一般の人にどう伝えるか ・机上の理想だけでなく実行が大切 	<ul style="list-style-type: none"> ・今回の基本計画策定のポイントとして、区民のみなさんの日常生活で起こりうる身近な課題の解決につなげることに重点を置いています。 ・また、PDCAサイクルによる適切な進捗管理を行うことで、計画に記載している取組を着実に実行していきます。

テーマ2 将来像について

	意見・アイデア	対応
全体を通して	<ul style="list-style-type: none"> ・P20では、上京らしさが伝わりづらい ・個人情報再考、隣組のような（小グループ）単位での活動システム作り ・地域＋若者でまち歩きを！ ・攻めの”元学区“の文言がいるのでは？ ・今の文言をもっと踏み込んだ内容に ・方向性を明確にした方がよい ・活動も“元学区”とあればしやすい ・もともと地域への愛着が強く、17学区は残してもらいたい ・防災や防犯については、学区単位でなければならない 	<ul style="list-style-type: none"> ・将来像については、それぞれのテーマの方向性が明確になるように文言の修正を行います。 ・また、地域活動については元学区単位での活動が基本であることを踏まえ、これまでの元学区単位での活動をしっかりと維持していくことと、少子化や高齢化の進展など社会状況の変化に対して、学区単位の活動も変化が求められることを加筆します。 <p>【修正箇所】</p> <p>⇒「地域の絆を生かすまちづくり」の文章（19頁）</p> <p>⇒「新しい力を生かすまちづくり」の文章（19頁，20頁）</p>
テーマ1	<ul style="list-style-type: none"> ・若者、新しく越して来た人々が組長など担える仕組みづくり ・小さい単位での町内会のつながり（自然と知ってる同士） ・外から入っている人も参加しやすい町内の輪づくり 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域活動の活性化に向けては、これまでの策定委員会や部会等の議論からも、若者や新規居住者の参加が必要不可欠であると考えます。 ・また、お互いに気心のしれた関係を構築するという場合に、町内会単位での交流も非常に重要であると考えます。 ・そのような旨が伝わるように、文言を修正します。 <p>【修正箇所】</p> <p>⇒「多様な住民が地域活動を担うまち」の文章（20頁）</p>
テーマ2	<ul style="list-style-type: none"> ・マンションでの顔のみえる関係づくり →マンションでのまちづくりに長じた人 →コーポラティブハウス ・“向こう三軒両隣” →安心・安全のまちに加える（プライバシー、個人情報保護の意識変化） ・「向こう三軒両隣」大切な言葉。空家が5軒に1軒を越えそうな上京区。向こう三軒両隣が知り合いmapぬりつぶし活動をやって 	<ul style="list-style-type: none"> ・マンションでの顔のみえる関係づくりは、共同住宅世帯が区全体の半数を超える中で、重要な視点であると考えます。その旨が伝わるように、文章を修正します。 <p>【修正箇所】</p> <p>⇒「住民が守る安心・安全のまち」の文章（20頁）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「向こう三軒両隣」は、人口減少や高齢化が進展する中で、重要な視点であると考えます。ご指摘のように防災、防犯など安全・安心面

	いる学区もある	でのキーワードであると考えますので、加筆します。 【修正箇所】 ⇒「地域の絆を生かすまちづくり」の文章（19頁）
テーマ3	意見なし	
テーマ4	<ul style="list-style-type: none"> ・「地域の魅力の共有」→って何なのか？が分かりにくい。文化財が一番多い、ものづくりに携わっている人も多い、もう少し踏み込んで具体化して欲しい。 ・上京の魅力をもっとはっきり何かを示した方がよい。 ・地域振興 地元の郷土史家などを囲む車座、勉強会をあちこちで企画（シーズネットという会が参考になりそう） ・まちの縁側、主人達を応援する仕組みを作ろう！ ・まちの縁側、地域の居場所、1000カ所ネットワーク構想 	<ul style="list-style-type: none"> ・テーマ4・方針1・取組「地域の魅力の共有」については、それが一体何なのか伝わるように文言を修正します。 【訂正】 ⇒地域に蓄積された歴史・文化の共有（31頁） ・まちの縁側に関する内容については、テーマ1・方針1・取組「身近で気軽に交流できる場づくり」で記載しています。まちの縁側の主人達を応援するという趣旨が伝わるように、文言を修正します。 【修正】 ⇒空き部屋（家屋）を利用した交流の場（まちの縁側）づくりとその支援（23頁）
テーマ5	意見なし	